

令和5年度 アーツ前橋事業評価調書

基本事項	事業名	アーツ前橋 開館10周年記念コレクション+ 手のひらから宇宙まで												
	会期	2023/7/29-9/24 50日							開館日数	50日間				
	会場(ギャラリー)	地下ギャラリー							実施方式	01自主企画・単独方式				
	観覧料	一般	500円			出品点数	101点							
		割引	300円											
	担当者	学芸: 出原 均、辻 瑞生、庭山貴裕 事務: 菅原梨恵												
	目的(一覧表)	開館10周年を記念して、アーツ前橋がこれまで収集してきた近・現代作品をまとめて見せることで、アーツ前橋のこれまでの活動の一端を市民に理解していただく。同時に、コレクションの作品に親しんでもらい、さらに、明確なテーマを設けることで、展覧会としての面白さを味わってもらう。												
	キーワード	肌理、見えないもの、二重の世界、宇宙、美術館												
	他団体との連携 (共催、協力等)	中央商店街の関係者に解説会を設けた。												
参加作家	石内都	片山真理			加藤アキラ	塩原友子								
	清水刀根	白川昌生(新作)			鈴木ヒラク	照屋勇賢								
	中村節也	南城一夫			廣瀬智央									
関連イベント	①学芸員によりギャラリー・トーク 8/5、8/20、9/2、9/17													
	②対話型鑑賞プログラム「おしゃべりアートデイズ」 8/19、9/16													
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)		館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録						
		500部	40,000部											
	収入/支出	収入(A)	支出(B)		収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
							観覧料	助成金	他					
		予算	2,500,000円	6,000,000円	41.7%	2,000円	2,500,000円		0円					
		決算見込	604,000円	5,925,000円	10.2%	2,266円	604,000円		0円					
		差額	-1,896,000円	-75,000円	-31.5%	-	-1,896,000円							
	予算/決算	24.2%	98.8%	24.5%	113.3%	24%	#DIV/0!		#DIV/0!					
	② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要(転記)	コレクションの中から近代美術・現代美術の作品をまとめて紹介した、これまでで最も規模の大きなコレクション展。身近な生物や人物から、風景や世界、遠く宇宙まで10の章立てに分類してのテーマ展示とした。さらに、別章として、白川昌生に美術館をテーマにした新作の制作を依頼した。										
			・広報戦略 ・新たな試み(転記)	<ul style="list-style-type: none"> 準備段階からSNSで展覧会を紹介する機会を増やした。 南城特別館長の記者発表の後で参加記者に、ちょうどオープン前日にあたっていたので、内覧会を設けた。 祝日3日を無料の日とし、市民が美術館に足を運びやすくする機会を設けた。 キャプションには作品制作年のときの作家の年齢を記した。作家解説を壁に貼るとともに、個々の作品の解説シートを作成し、作品への理解を促した。 										
〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 アンケート		広報実績[新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	<ul style="list-style-type: none"> 他のイベントのSNSの数を増やしているため、明言はできないが、美術館のHPを見る人の数は徐々に上がっている。来館者数につながった可能性はある。 内覧会には数営の参加があり、その取材が記事になったので、意義があったと考えられる。 開館10周年ということもあり、「上毛新聞」や「朝日ぐんま」が本展の記事を掲載した。 											
		新たな試みの実績	<ul style="list-style-type: none"> キャプション中の作家の年齢記入や、作品解説シートについて、アンケートの回答者の中には評価する人がいたので、一定の効果はあったと思われる。 祝日を無料にすると、その3日間は100人を超える来館者があった。コレクション展に親しんでもらう上では無料日を設けてよかったと思われる。 											
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段: 人数(人) 下段: 割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)	
		1,074	121	103	0	256	297	7	15	0	742	2,615	52	
	41.1%	4.6%	3.9%	0.0%	9.8%	11.4%	0.3%	0.6%	0.0%	28.4%				
	指標	目標値		達成値		達成率		特記事項						
	一般指標	入場・参加者数		3,000人		2,615人		87.2%						
	展覧会満足度		%		85.0%		pt		アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)					

令和5年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	アーツ前橋 開館10周年記念コレクション+ 手のひらから宇宙まで																				
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(準備期間が3か月弱と短かったので、急いだものの、全般的に少し遅れた) 開館後まで積み残しとなった事項(学校への通知、作品解説シートの作成)																				
④ 成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	前橋市民																			
		成果	アンケートの回答者は、前橋以外の方が多いので、前橋市民に美術館に足を運んでもらう目標がどの程度できたのかははっきりわからない。ただ、入館者数が伸びなかったため、前橋市民の来館も、それに比べて少なかったと思われる。																			
		ねらい1 (転記)	アーツ前橋のこれまでの活動の一端を理解してもらう。																			
		成果	アンケートによると、アーツ前橋のこれまでの活動を回想しながら作品を見た人がいたので、そのようなファンにとっては、まとまったコレクション展を開催する意義はあったと考えられる。																			
		ねらい2 (転記)	コレクションに親しんでもらう。																			
		成果	近代美術と現代美術の両方を展示し、できるかぎり幅広い内容としたが、アンケートによると、それぞれについてを関心をいただいている人がいるので、ある程度は狙い通りになったと考えられる。特定の作家に対するファンもいるらしく、個展を望む声もあった。																			
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<p><1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1 参加作家のその後の活動を評価⇒後日、記入</p> <p>2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日、記入</p> <p>3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒出品作家や、まえばしガレリアを訪れた美術関係者らが本展に寄る機会が生じ、彼らとの交流が深まった。</p> <p>4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒アーツ前橋の再開を、403architecture[dajiba]とともに市民に印象付ける効果があった。</p> <p>5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒コレクションは地域資源といえるので、今回の展覧会は、それを最も活用したといえるかもしれない。ただ、コレクションの一面しか紹介していないので、今後、別角度で、あるいは、より深く活用していかなければならない。</p> <p>6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒</p>																				
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>②良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td>③普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>②良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td>③普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> </table>			効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い
効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る																		
合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る																		
事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る																		
社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る																		
自己評価 (担当者)	課題・改善点	<p>・アンケート回答者には偏向があると思われる、前橋在者で、アーツ前橋をある程度知っている人がアンケートに回答するのは少ない傾向になるとと思われる。その分、他市から来館した人の率が上がる。それでも、高崎在住者の回答者は全体的に見ると、多い。広報については、前橋市民と同じくらい、あるいは、それに近づけて高崎市民に広報していくのがよいと思われる。広報計画の再検討をする必要がある。</p> <p>・学校への働きかけを試みたが、その時期が遅くなったことと、学校側が夏休み期間の子供たちへの連絡が制限されていたこともあり、周知できなかった。今後は、学校の状況を知り、適切な広報を行いたい。</p>																				
	引継ぎ事項 (特記事項)	<p>・今回は開館10周年ということもあり、テーマをできる限り広いものにした。今後も、テーマを設けるべきだが、そのテーマについては、内容をはっきり示すよう絞って、魅力的な内容にするべきだと考える。</p>																				
コメント・意見	館長 副館長	<p>準備期間が非常に短い中で収蔵作品を中心としたテーマを持たせたコレクション+展を夏休み期間中までに開幕することができた。アンケートによる企画満足度で85%(満足・やや満足)を得る一方、周知期間が短いこともあり、従前の展覧会とほぼ同規模の来館者数であった。来館者には収蔵作品からアーツ前橋の歴史を振り返りつつ作品の広がりを感じてもらうとともに、職員側も開催期間中SNS発信の工夫にも取り組みはじめると、事務・学芸が連携しながら今後に向けた課題改善の糸口をつかめたと感じている。</p>																				
	運営 評議会																					